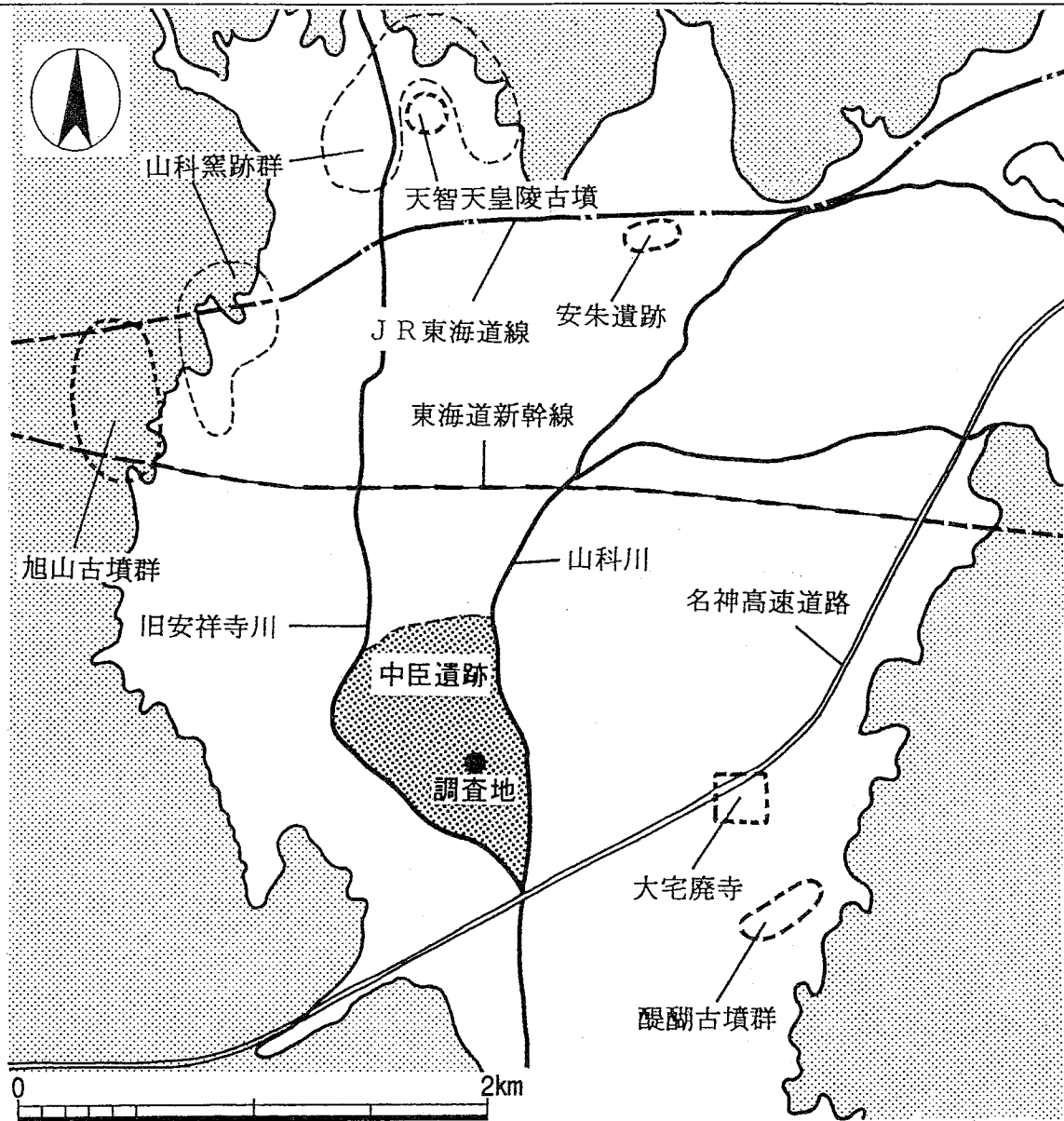


中 臣 遺 跡 (79次調査)

発掘調査現地説明会資料

- ・所在地 京都市山科区勸修寺東栗栖野町 他
- ・調査期間 1998年11月16日～ 継続中
- ・調査面積 約2,200㎡ (第2調査区)
- ・調査主体 財団法人京都市埋蔵文化財研究所



1999年3月13日

財団法人京都市埋蔵文化財研究所

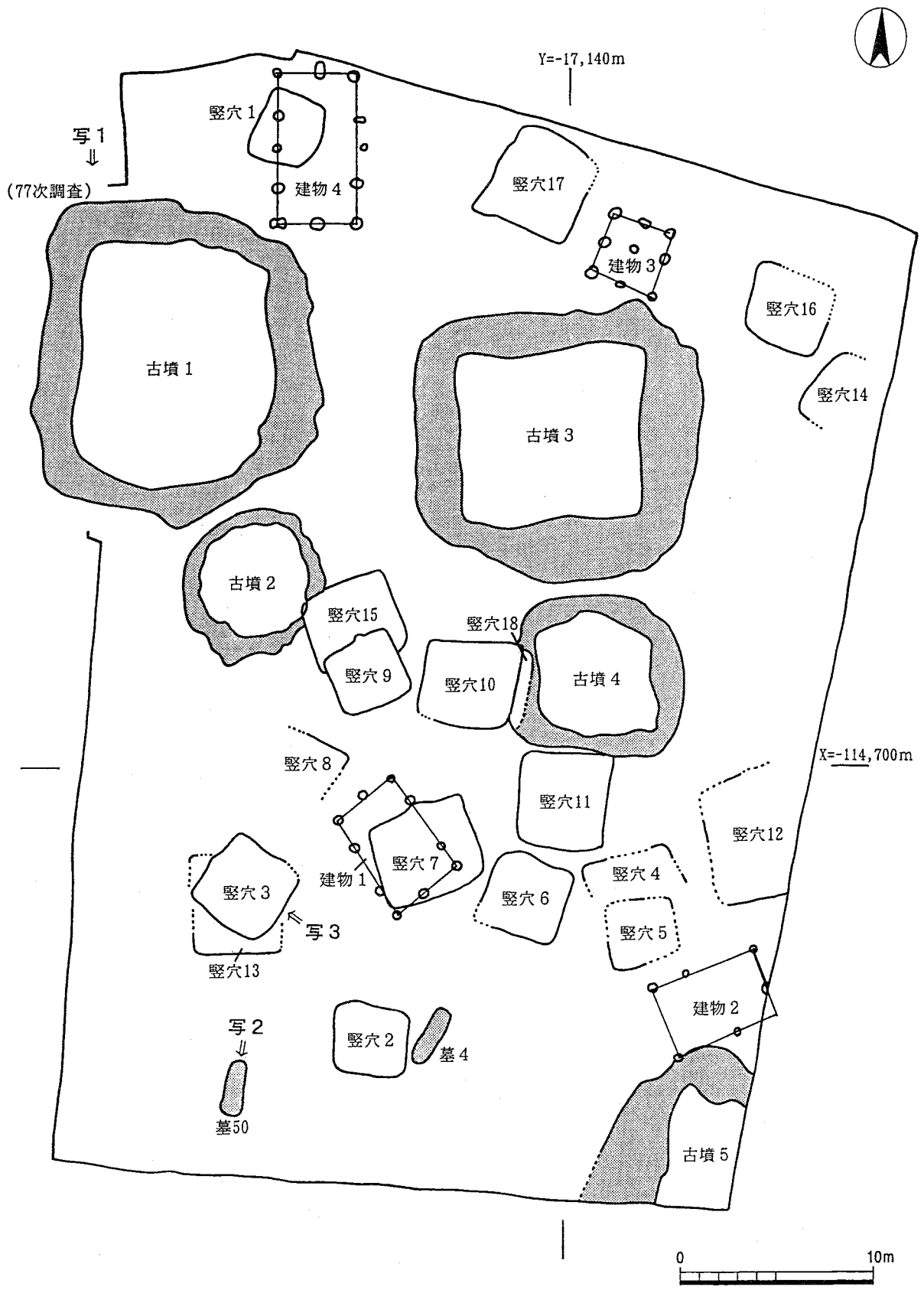
中臣遺跡の概要 山科区栗栖野の台地を中心とする広い範囲の地下に、旧石器時代（約2万年前）から室町時代（約500年前）にわたる遺跡がある。これが中臣遺跡である。この遺跡は、西は旧安祥寺川^{あんしょうじ}、東は山科川を限りとし、両河川の合流点より北側に広がる。面積60畝におよぶ大きな遺跡である。1969（昭和44）年に発見され、1971（昭和46）年には第1回目の発掘調査が行われた。今回の発掘は市営住宅の建替えに伴うもので、79回目の調査である。三方を山で囲まれた山科には、一つのまとまった生活環境と社会があったと想像できる。中臣遺跡は、早くから市街化され遺跡の実態がなかなか判らない山科の歴史と人々の暮らしぶりを知る上で、とても重要である。

調査のあらまし 今回の調査では、6世紀（古墳時代後期）の古墳と墓、7世紀（飛鳥時代）の集落の跡が見つかった。

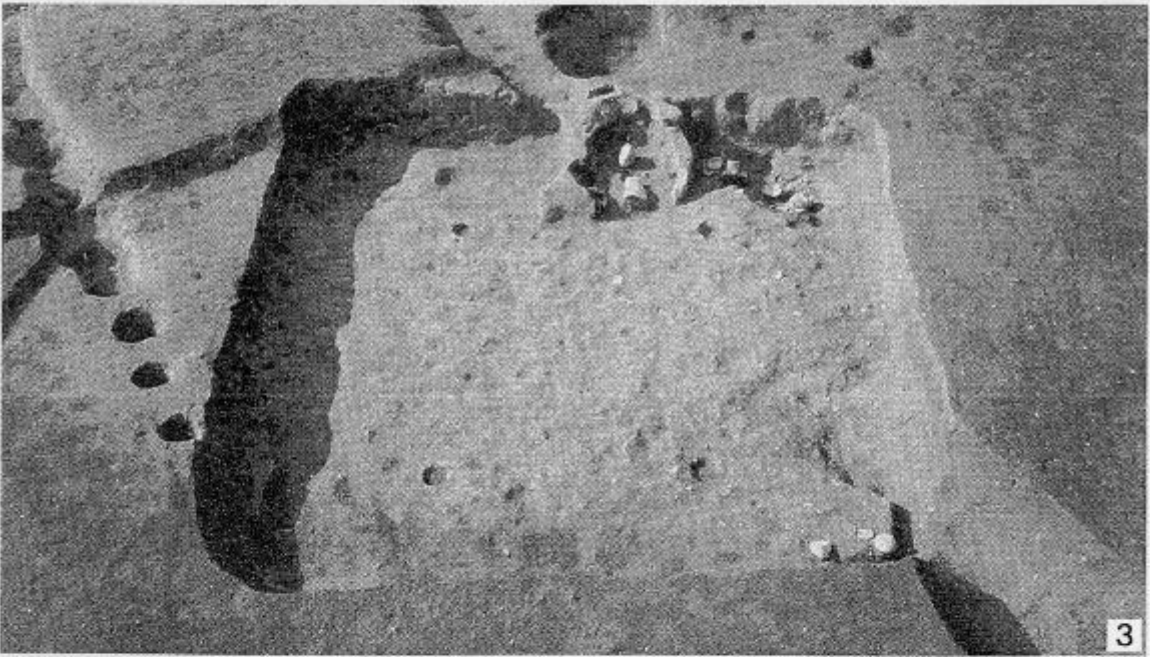
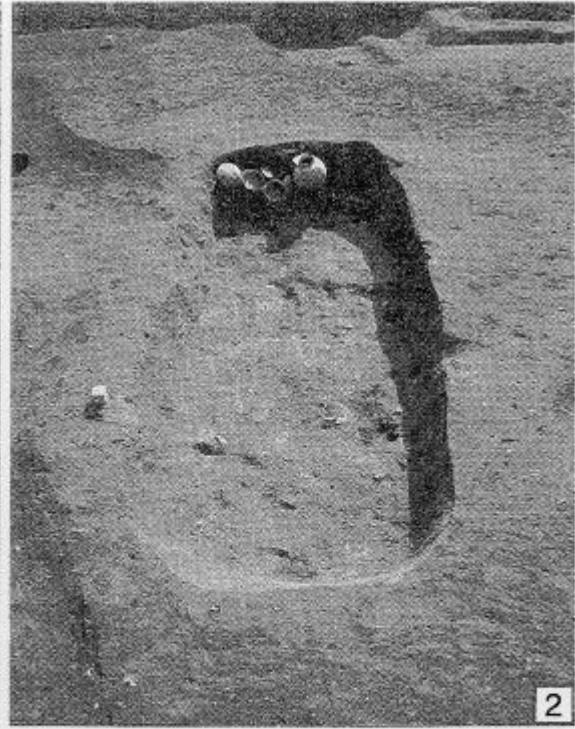
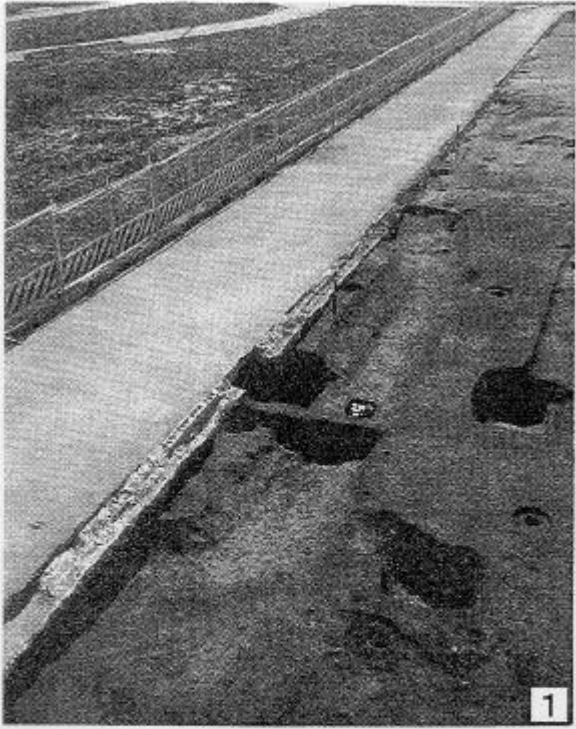
6世紀の古墳は中臣遺跡では初めての発見で、どれも6世紀初めのものである。大型のもの3基と小型のもの2基の計5基を検出した。いずれも墳丘の盛土が削られてしまっているため、死者を埋葬した部分は残っていない。他の遺跡の例を参考にすると木製の棺を埋めただけの簡単な構造であつたらしい。大型の古墳（古墳1・3・5）は一辺9mから12mの方形の墳丘裾に幅2mから2.5mの周溝がめぐる。小型の古墳（古墳2・3）は5mから6mの円形と方形の墳丘裾に幅50cmから1mの周溝がめぐる。小型の古墳は大型の古墳に接するように作られていて、大小の古墳1基ずつで一つの組合せになっているらしい。また、少し後の墓が2基見つかっている（墓4・50）。墳丘と周溝がなく棺を埋めた墓穴^{はかあな}だけの簡単な構造である。墓穴の長さは約3m、幅は約1mある。棺と遺体は朽ちて残っていないが、中から須恵器の杯や甕が完全な形で出土している。棺の上部に供えられた器が陥没した墓穴に落ち込んだものであろう。その他の副葬品は出土していない。これらの古墳や墓を作った人たちの集落は、これまでのところ見つかっていない。

7世紀の集落跡は、これまでに中臣遺跡の全域で見つかっている。竪穴住居と掘立柱建物の2種類の建物が集まって集落を構成している。竪穴住居は方形に地面を掘り窪めて床と壁の一部を作る形式の建物で、床には上屋を支える柱跡、壁ぎわにはカマドや貯蔵用の穴などがあり、これを17棟検出した。掘立柱建物は、地面を掘り窪め^{くぼ}ずに地面に直接柱を立てて上屋を立てる形式の建物で、4棟検出した。建物1・2・4は住居、建物3は高床式の倉庫と考えている。古墳の部分に建物跡が無いこと、古墳の周溝から7世紀の遺物が多く出土していることから、7世紀には古墳の墳丘と周溝がつくられたままの状態が残っていたことがわかる。また、これらの建物群は、古墳1と古墳2によって隔てられ、北と南の二つのグループに分かれるようである。

これからの調査 これから、市営住宅建設予定地の全域を続けて調査してゆく予定である。古墳や建物跡が、さらにたくさん見つかることが予想される。また、旧石器時代や縄文時代、奈良時代など様々な時代の遺構も見つかる可能性もある。



主要遺構分布図 (1 : 300)



1 : 古墳 1 周溝西半部 (77次調査)

2 : 墓50 3 : 竪穴 3

4 : 竪穴 3 カマド 廃棄状況

5 : 竪穴 3 カマド 完掘状況

中臣遺跡第79次調査成果報告会資料

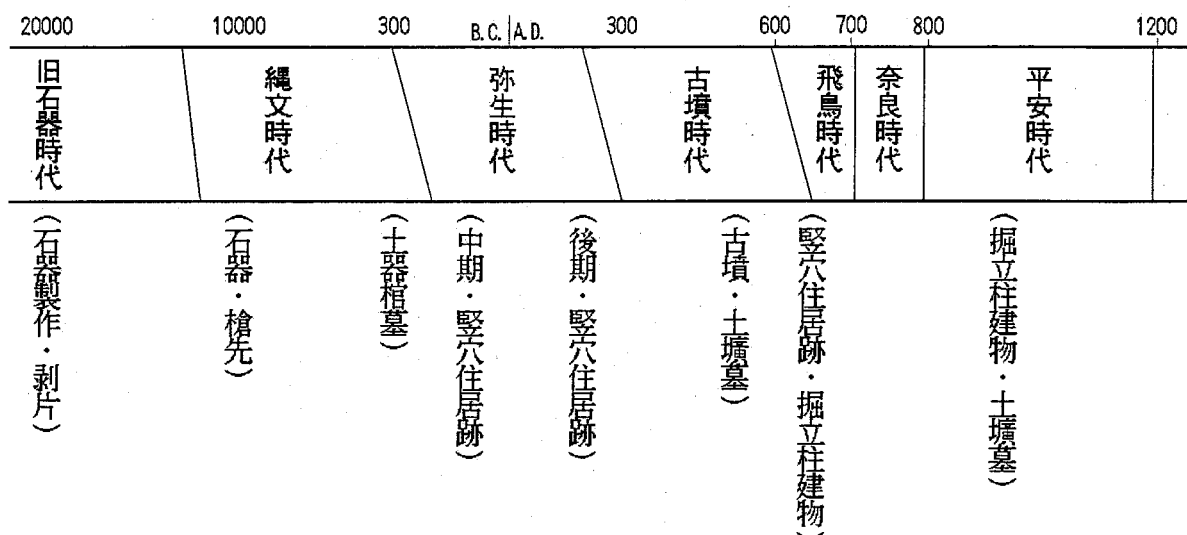
1999年11月27日

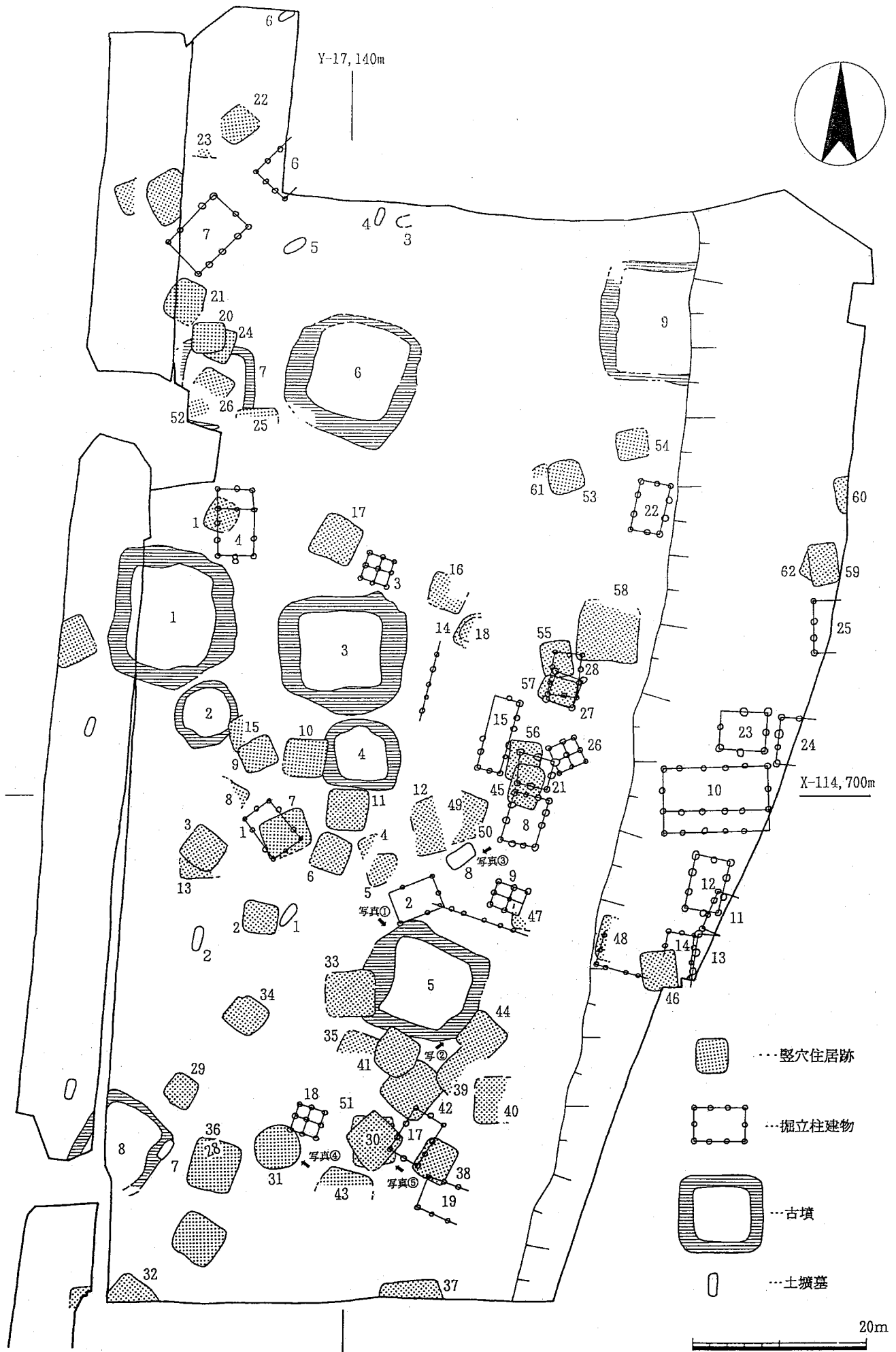
財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

中臣遺跡は、山科盆地の西南部にある旧石器時代（約20,000年前）から室町時代（約500年前）にかけての遺跡です。この遺跡は旧安祥寺川と山科川に挟まれた台地を中心に拡がり、面積は約60ヘクタールにおよびます。京都を代表する大規模な遺跡です。1969（昭和44）年に発見され、1971（昭和46）年に第1回目の発掘調査が行われました。今回の発掘は市営住宅の建替えにともなうもので、昨年11月から調査を開始しました。中臣遺跡の79回目の発掘調査です。調査面積は11,100平方メートルです。

今回の発掘は、来年の3月まで継続して行いますが、これまでに古墳時代後期から飛鳥時代（1500～1300年前）の遺構・遺物を中心に次のような多くの成果がみられました。

時代	おもな遺構	おもな遺物
旧石器時代		石器製作のときの剥片
縄文時代	土器棺墓1基（晩期）	槍先などの石器 縄文土器
弥生時代	竪穴住居跡1棟（中期） 竪穴住居跡1棟（後期）	弥生土器 石斧などの石器
古墳時代後期～飛鳥時代	古墳9基、土壙墓8基 竪穴住居跡62棟 掘立柱建物10数棟	土師器、須恵器 朝鮮半島（百濟）製の土器 刀子などの鉄製品 砥石などの石製品
奈良時代～平安時代	掘立柱建物数棟 土壙墓1基	土師器、須恵器

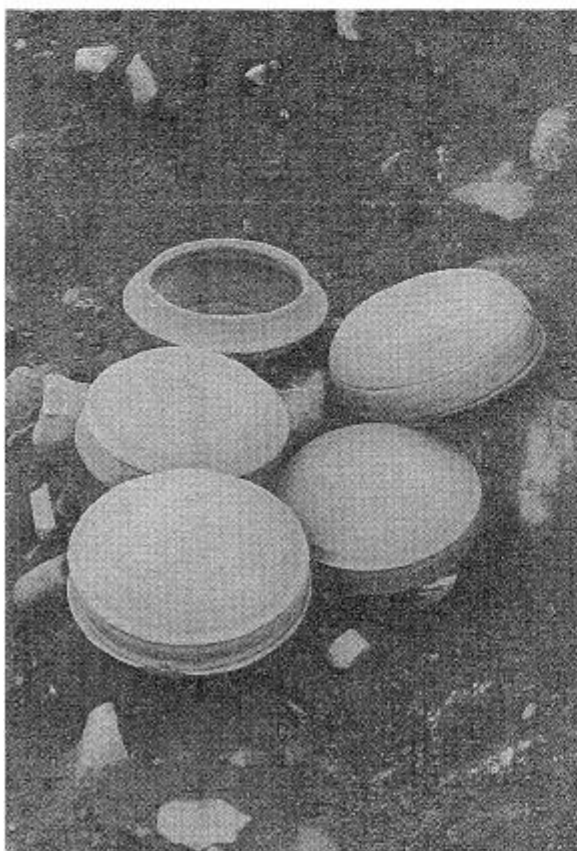




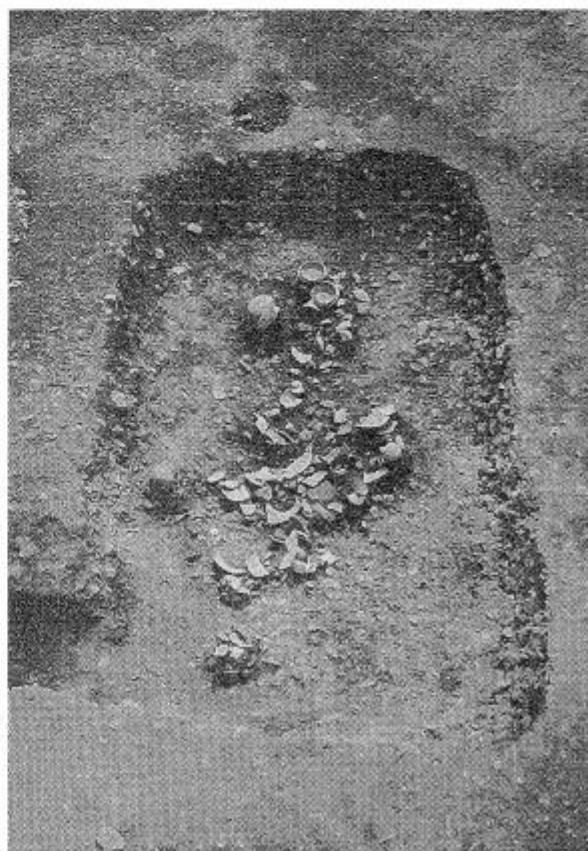
主要遺構分布図 (1 : 600)



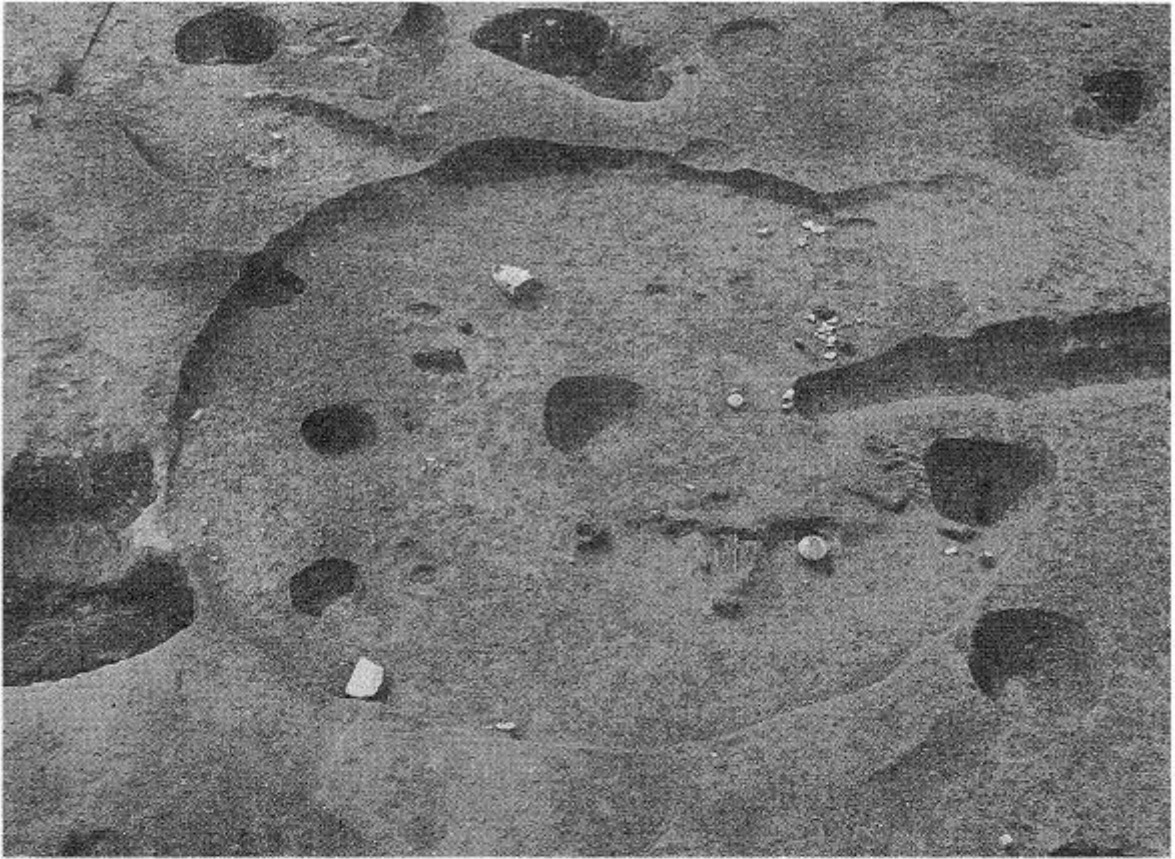
① 古墳 5 (北西から)



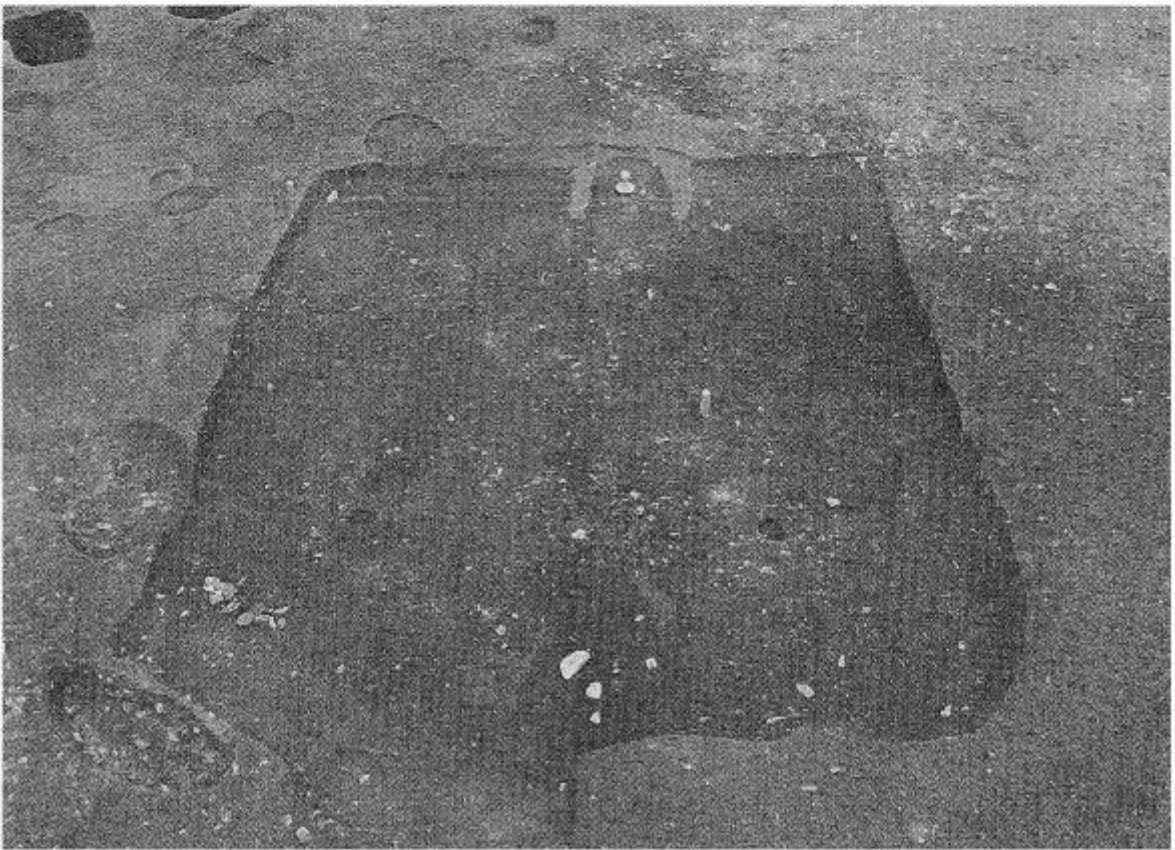
② 古墳 5 に供えられた土器



③ 土墳墓 8 (北東から)



④ 弥生時代の竪穴住居跡（竪穴 31 東から）



⑤ 古墳時代～飛鳥時代の竪穴住居跡（竪穴 30 南東から）